

正しく学ぶ! 感染症から

「いのち」と「くらし」を守る講座

第7回 ウイルス感染症の克服に向けて

松浦 善治 氏 大阪大学感染症総合教育研究拠点 拠点長・特任教授(常勤)



申込不要

2021年10月29日(金)
19:00~20:00

講座概要

人類の歴史は感染症との戦いであり、致死性の高いウイルス感染症が幾度となく出現してきました。最近、感染症の様相は大きく変容し、熱帯感染症の発生域が拡大しています。また、今回の新型コロナウイルスのパンデミックでは、いかに我々がウイルス感染症に対して無力であるかを思い知らされました。生き物には必ずウイルスが潜んでいます、その中で病気を起こすウイルスはほんの一握りです。

本講義ではウイルスについて説明し、新型コロナウイルスの性質や状態と制御法開発の現状を紹介します。

講師

CiDER(感染症総合教育研究拠点)とは

松浦 善治 氏

大阪大学 感染症総合教育研究拠点
拠点長・特任教授(常勤)

昭和53年3月に宮崎大学農学部獣医学科を卒業後、昭和55年3月に北海道大学獣医学部大学院修士課程を修了し、第一製薬株式会社中央研究所に入所する。その後、国立予防衛生研究所獣疫部、国立感染症研究所ウイルス第二部肝炎ウイルス室室長を経て平成12年4月に大阪大学微生物病研究所教授になる。平成27年10月から令和1年10月の間大阪大学微生物病研究所の所長を務め、令和3年4月から大阪大学感染症総合教育研究拠点拠点長を務める。多ヶ谷勇記念ワクチン研究イスクラ奨励賞、ウイルス学会杉浦奨励賞、野口英世記念医学賞を受賞。

大阪大学は、新型コロナウイルス感染症の流行で浮き彫りとなった日本が抱える課題を踏まえ、新型コロナウイルス感染症への対策のみならず、将来の感染症の脅威から人々の「いのち」と「くらし」を守ることを目指し、2021年4月に感染症総合教育研究拠点(Center for Infectious Disease Education and Research (CiDER))を設置しました。CiDERでは、研究型総合大学の利点を活かし、感染症克服のための「オール阪大」の研究を推進し、ここで得られた基盤研究、学術研究の成果をもとに、感染症の克服へ向けての貢献を目指します。

オンライン(YouTube)参加はこちら→

<https://kc-i.jp/activity/chogakko/cider/detail20211029.php>

主 催 | CiDER(大阪大学感染症総合教育研究拠点), 一般社団法人ナレッジキャピタル

大阪大学感染症総合教育研究拠点 事務局

問い合わせ

☎ 06-6879-4903 ✉ kansensyo-soumu@office.osaka-u.ac.jp🌐 <https://www.cider.osaka-u.ac.jp/index.html>

正しく学ぶ! 感染症から

「いのち」と「くらし」を守る講座

当講座は、新型コロナウイルスを始めとする感染症の脅威から人々の「いのち」と「くらし」を守るために、科学的根拠に基づいた感染症対策やリスク、ワクチンの開発状況に加えて、感染禍が人々の行動に与えた影響の分析などの幅広い話題について、大阪大学のさまざまな分野の研究者が、中学生から大人までを対象にわかりやすく解説する全12回のオンラインプログラムです。



過去の講座はアーカイブで視聴できます

第1回 日本の高齢者の新型コロナ・ワクチン接種意向の強さ



「新規感染状況」と「接種の進捗状況」などのさまざまな要素が、日本の高齢者の新型コロナウイルスのワクチン接種に対する意向をどのように変化させるのか。感染症対策の検討にも役立つ行動経済学を学ぼう!

大阪大学感染症総合教育研究拠点
副拠点長・特任教授(常勤)

大竹 文雄

第2回 新型コロナウイルス感染経験者・医療従事者へのインタビューから見た真実



インタビューから分かったコロナ禍の実態を基に、講師それぞれの専門的立場(社会心理学・現象学・健康心理学・行動経済学)から、コロナ禍という社会現象を読み解く!

大阪大学大学院人間科学研究科
(兼) 感染症総合教育研究拠点

教授 三浦 麻子
准教授 平井 啓
教授 村上 靖彦

第3回 ウイルス感染とワクチン—ウイルスと免疫の攻防—



ワクチンが効いたり、効かなかったりするのはなぜなのか? 新型コロナウイルスに対してどのようなワクチンが作られているのか? ウイルス感染から身を守る免疫系の働きを考えながら解説

大阪大学免疫学フロンティア研究センター
(兼) 感染症総合教育研究拠点
特任准教授(常勤)

伊勢 渉

第4回 新型コロナ感染症対策の行動経済学



同じ情報内容でも提供のあり方やデザインが異なると、私たちは意思決定を変える傾向がある。この点について、学問的に明らかにしてきたのが行動経済学。新型コロナ対策に行動経済学はどのように使われているのかな?

大阪大学感染症総合教育研究拠点
副拠点長・特任教授(常勤)

大竹 文雄

第5回 大規模集会における感染リスク：解決志向リスク学の実践



大規模集会における観客の感染リスクや対策の効果評価の事例を基に、社会における新型コロナウイルス感染症対策のあり方について考えよう!

大阪大学感染症総合教育研究拠点
特任教授(常勤)

村上 道夫

第6回 さまざまなケア、さまざまなケアの見方



ケアが何であって何でないのか。医療ケアだけでなく子ども食堂等地域社会における住民間のケア、心理臨床における「ケア」、ケアについての社会全体の意識といった広い視点から考えよう!

大阪大学大学院人間科学研究科
(兼) 感染症総合教育研究拠点

教授 村上 靖彦
准教授 平井 啓
教授 三浦 麻子

第7回 ウイルス感染症の克服に向けて



生き物には必ずウイルスが潜んでいるけど、その中で病気を起こすウイルスはほんの一握り。ウイルスについて説明し、新型コロナウイルスの性質や状態と制御法開発の現状を紹介する。

大阪大学感染症総合教育研究拠点
拠点長・特任教授(常勤)

松浦 善治

CiDER WEBサイトはこちら 🔍



大阪大学 感染症総合教育研究拠点

11月11月26日に開催します。